

まちの「今」をお届けします



写真左から、武田みやび(高千帆中)、細田眞友子(小野田中)、吉村なぎ(竜王中)  
藤田剛二市長、上田楓真(厚狭中)、青木宏憲(厚陽中)、加藤天河(埴生中)

中学生 6 人が市政への関心と理解を深める

## スマイルシティ山陽小野田 1 日市長体験

8月21日、市内の中学1年生6人が1日市長となって、市長の仕事や市役所の仕組みを学びました。

まちの未来を担う子どもたちが市長の公務を体験することによって、市政への関心と理解を深めることを目的に、昨年に続いて2回目の実施。市役所での議場見学や模擬庁議、模擬決裁の体験、山口東京理科大学やきららガラス未来館、県立おのだサッカー交流公園などの視察といった公務を体験しました。

中学生は、市の部長級職員が集まって重要な施策について話し合う模擬庁議に参加し、「市の広報はどのように工夫して作るのか」「ごみ拾いをして海の環境を良くしてほしい」などの質問や要望を伝えていました。また、模擬決裁では、緊張した表情で市長のい

すに座り、文書に印鑑を押していました。

最後に、「私が考えるスマイルシティ山陽小野田」と題して、こんなまちにしたいという思いを一人ひとりが考えました。細田眞友子さん(小野田中)は、「私はまず、あいさつを心がけます。あいさつは人と人をつなぐ魔法の言葉。自然にできれば、このまちが明るくなると思う」と発表。上田楓真くん(厚狭中)は、「活力と笑顔あふれるまちづくりには若い人が必要。みんなで協力して市のファンを増やし、市のことを好きになってほしい」と訴えました。

藤田市長は「今日の体験をきっかけに行動の幅を広げて、いろいろなことにチャレンジしてください。若いみなさんの成長は市の宝です。活躍を期待しています」とエールを送りました。